

注意: 「答」そのものは採点の対象にはしない。「答」に至る過程を採点の対象にする。したがって、答案は単に「答」を書くだけでなく「答」に至るまでの経緯を論理的に論述する事。

答案作成は数式も含め作文であるから、主語・述語・テニヲハ・句読点等に十分注意する事。

証明なしで定理・命題を使用するときはその正確な内容を明示する事。

採点は減点法を採用する。つまり間違いの内容によっては白紙答案より低い点数になる場合がある。careless miss でそのような事はないが、「分からなくても適当に何か書いておけ」という姿勢で回答するとそうなることがある。

在籍番号欄について: 再履修者は 10 桁の在籍番号を書く事。1 年生は出席番号 (多くは 2 桁) でよい。

1 次のベクトルが 1 次独立かどうか、理由をつけて答えよ。

$$(1) \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ -1 \\ 0 \end{pmatrix}$$

$$(2) \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$$

裏にも問題あり。別紙にも問題あり

学 科		在 番 籍 号		氏 名	
--------	--	------------------	--	--------	--

2  $A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$  に対し線型写像  $T_A : \mathbf{K}^4 \rightarrow \mathbf{K}^4$  を  $T_A(\mathbf{x}) = A\mathbf{x}$  で定義する。  $\text{Ker}(T_A) = \{ \mathbf{x} \in \mathbf{K}^4 \mid A\mathbf{x} = \mathbf{0} \}$ ,  $\text{Im}(T_A) =$

$\{ \mathbf{y} \in \mathbf{K}^4 \mid \text{あるベクトル } \mathbf{x} \in \mathbf{K}^4 \text{ が存在して } \mathbf{y} = T_A(\mathbf{x}) \text{ となる} \}$  に対し次の問に答えよ。

- (1)  $\text{Ker}(T_A)$  が部分空間である事を示せ。
- (2)  $\text{Ker}(T_A)$  を求めよ。
- (3)  $\text{Ker}(T_A)$  の基底を 1 組自分で選び、それが実際に基底になっている事を示せ。
- (4)  $\text{Im}(T_A)$  の基底を 1 組自分で選び、それが実際に基底になっている事を示せ。
- (5) 次元の定義を述べ、 $\text{Ker}(T_A)$  及び  $\text{Im}(T_A)$  の次元を求めよ。

3 次の部分空間で等しいものはどれか，異なるものはどれか，理由をつけて答えよ。ただし

$$\mathbf{x}_0 = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}, \mathbf{x}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 0 \end{pmatrix}, \mathbf{x}_2 = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 1 \end{pmatrix}, \mathbf{x}_3 = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ -2 \end{pmatrix}, \mathbf{x}_4 = \begin{pmatrix} -2 \\ 2 \\ 4 \end{pmatrix}, \mathbf{x}_5 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} \text{ とする。}$$

(1)  $W_1 = \{\mathbf{0}\}$

(2)  $W_2 = \langle \mathbf{x}_0 \rangle$

(3)  $W_3 = \langle \mathbf{x}_3 \rangle$

(4)  $W_4 = \langle \mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2 \rangle$

(5)  $W_5 = \langle \mathbf{x}_3, \mathbf{x}_4 \rangle$

(6)  $W_6 = \langle \mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2, \mathbf{x}_3 \rangle$

(7)  $W_7 = \langle \mathbf{x}_4, \mathbf{x}_2, \mathbf{x}_6 \rangle$

(8)  $W_8 = \langle \mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2, \mathbf{x}_3, \mathbf{x}_4 \rangle$

(9)  $W_9 = \mathbf{R}^3$

(10)  $W_{10} = \left\{ \mathbf{x} = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix} \in \mathbf{R}^3 \mid x_1 + x_2 = 0 \right\}$

(11)  $W_{11} = \left\{ \mathbf{x} = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix} \in \mathbf{R}^3 \mid x_1 - x_2 + x_3 = 0, x_1 + x_2 = 0 \right\}$

(12)  $W_{12} = \left\{ \mathbf{x} = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix} \in \mathbf{R}^3 \mid x_1 - x_2 + x_3 = 0, x_1 + x_2 = 0, x_2 + x_3 = 0 \right\}$

裏にも問題有り

学 科		在 番 籍 号		氏 名	
--------	--	------------------	--	--------	--

- 4  $n$  次行列  $A = (a_{ij})$  に対し  $c_{ij} = a_{ji}$  としたとき  $C = (c_{ij})$  で定義される行列を  $A$  の転置行列といい,  $C = A^T$  と表す。  $A, B$  を  $n$  次行列とすると,

$$(AB)^T = B^T A^T$$

が成り立つ事を示せ。

- 5 授業についての感想, 数学について思う事などがあれば記せ (10)。